

# 新旧世代が激突!

あきの じゅんや  
浅野 純也 (ライター)

## 第12回かわさきロボット競技大会レポート

夏休み後半の恒例イベント、かわさきロボット競技大会が今年も開催された。第12回を迎えるロボコン界の老舗的存在だ。今年も居並ぶ常連を連破した新星が会場を沸かせた。

### 最多の225チームが参加

かわさき大会のメインであるバトルロボットトーナメントが、8月20～21日の両日にわたって開催された(19日開催のジュニア大会については、コラムを参照のこと)。今回は、エントリーの最高記録を更新する225チームが応募、うち204チームが書類審査を通過した。初参加は76チームと昨年より10チーム減っているが、それにもかかわらずエントリーを増やしているという事実は、大会の魅力を表していると言えるだろう。もちろん強豪常連組、そして非強豪の常連組も顔を揃えている。

昨年のギアボックス自由化に続いて、今年もレギュレーションの大きな変更があり、脚機構を駆動するモーターの数の制限が撤廃された。とはいえ重量制限は変わっていないので、1個80g前後とはいっても、その数をやみくもに増やすことは難しく、脚回りを強化するのかアームの攻撃力にふるのか、コンセプトと設計にさらなる工夫が求められるようになった。

また、リングにも変更があった。従来のリングを囲むように外堀が作られ、ロープはその外堀側に移動、外堀部分にロボットが接地した時点で場外となり、昨年まで見られたロープへの押し付けやリング外への落下が起こらないすっきりしたレイアウトになった。同時に、リング内にあったスタート位置はリング外のボックススペースに移動、スタート後は撤去することになった。

### 熾烈な予選

書類審査を通過した204チームは、4つのブロックに分かれてトーナメントと敗者復活戦を戦い、各ブロック8チームずつ、計32チームが決勝トーナメントに進出するのだが、実はこのかわさき大会、予選を突破するのが優勝よりも困難だ。

決勝トーナメントは1試合3本勝負だが、予選は1本勝負。それを3試合、または4試合ストレートで勝ち抜く必要があるからだ。もちろん一度負けても敗者復活戦があるが、1回戦で負けた場合、最悪でさらに7試合を勝ち抜く必要がある(試合数の違いは、抽選でどの山に入るかによる)。トラブルな

く試合を重ねつつ、集中して勝利を重ねることが求められるわけだ。

今年も優勝経験のある「女王様」が1回戦で敗退、敗者復活戦を5試合勝ち進んだが、予選突破目前の6試合目で力尽きたし、同じく優勝経験があり上位常連でもある「ROCKY7」が3回戦で敗退、復活戦を勝ち上がったものの、やはり目前の3試合目で敗れた。

一方、「たんぼぼ」や「カトレア」、「武神皇 V-spec」らの常連強豪は予選をストレートで突破、昨年優勝の「闘神皇 STRIKER」は敗者復活で勝ち上がった。

### 青く舞う機体

決勝トーナメントの組み合わせは当然抽選の結果だが、1回戦でたんぼぼと武神皇 V-spec が、2回戦でカトレアと闘神皇 STRIKER が当たった。どちらもチーム的にはファミリー、つまり同じ機構を持つ派生型ロボットで、カトレアファミリー(2チーム)対神皇部隊(5チームが参加し、3チームが決勝進出)という図式だ。昨年は闘神皇がたんぼぼを決勝で破ったが、今年たんぼぼとカトレアがともに勝ち上がり、昨年の仇を討ったかたちになった。

圧勝ではなかったものの、この結果から今年カトレアファミリーが優位と思われたが、その前に立ち上がったのが「舞姫」だ。予選をストレートで突破、決勝トーナメントの2試合を何とか勝ち上がった舞姫は、3回戦でカトレアと対戦、2対1で辛勝した後、準決勝で「メカニック」を破り、決勝でたんぼぼをストレートで撃破、初優勝を飾った。ちなみに昨年は予選落ちだった。

舞姫は、「美しい機体はそのパフォーマンスも高い」という言葉を思い出させる。形状的には長い跳ね上げアームを持つスタンダードなスタイルだが、青い波状のカットが入ったサイドプレートと脚に入れたスリットの造形が非常に美しく、最初にリングに登場したときから多くの目を惹いていた。

特にパワフルというわけでもないが、機体の左右に別個にサスペンションがあり、片側が持ち上がっても残りの一方が接地しようと姿勢を残せる構造が特徴。力勝負で跳ね

上げられてもその影響を小さくすることができ、重量級のカトレアやたんぼぼとの対戦でも、片側だけを残して踏ん張っていた。また故障がほとんどなく安定していたこと、試合を重ねるにつれて操縦者が試合の勘どころを掴んだことも勝因だろう。

### 記憶に残る夏の1日

試合の合間を縫って、バトルロボットのインテリジェント化を模索する狙いでプロジェクトが進められているバトル知能ロボットについての発表があった。芝浦工大のチームが研究製作したもので、ビジョンをはじめとする各種センサーを搭載し自分で相手を捕捉して闘うというコンセプトだったが、ハードウェアは何とか完成させたものの、ソフトウェアの整備が間に合わず、満足なデモができなかった。

今回は8万円ほどが制作費だというが、これをさらに抑えてキット化できないことには、かわさき大会の次のステップはなかなか見えてこない。さらなる研究に期待したいところだ。

また、予選で敗退したもののユニークで目を惹くロボットたちが選ばれて、バトルロイヤルを行う特別戦も開催された。詳細は写真を見てもらうとして、1回戦で敗退した機体、予選突破目前までいった機体が混在しているのが面白い。

表彰式では、今年も飲料1年分や米などユニークな賞品が登場し、会場を沸かせた。昨年に比べ企業賞の数が少なくなっていたのが気がかりではあったが……。総括をした佐藤実行委員会委員長は「今年も例年に劣らない名勝負がたくさんあり、記憶に残る夏の1日になった」と挨拶。来年の再会を約束した。

第12回かわさきロボット競技会  
バトルロボット決勝結果

優勝	舞姫
準優勝	たんぼぼ
3位	stinger
4位	メカニック